

紙推進協ニュース

2025年1月1日 No.121

紙製容器包装リサイクル推進協議会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-21 新虎ノ門実業会館 8 階
TEL : 03-3501-6191 ホームページ : <http://www.kami-suisinkyo.org/>
FAX : 03-3501-0203 Eメール : p@kami-suisinkyo.org

年頭のご挨拶

紙製容器包装リサイクル推進協議会
会長 野口 晴彦



2025年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当推進協議会の活動に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで当推進協議会も創設以来27年目を迎えることとなりました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝いたしております。

さて、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会にて、容器包装リサイクル制度（以下、容リ制度）の見直しに関連する「プラスチック資源循環促進法」に伴い、2023年4月から新たに製品プラを含む再商品化が始まりました。また、「紙」についても、プラスチックから「再生可能資源（紙、バイオマスプラスチック等）」に適切に切り替えと明確に位置付けられ、プラからの「紙化」がより注目されるようになりました。

それに伴いアルミ付紙パックや紙カップ・複合紙箱をはじめとした複合品（複合紙製容器包装）のリサイクルの推進のために、複合品リサイクル推進WGを昨年5月に設置、自治体に複合品の回収、リサイクルの推進について働きかけを行っています。

また、3R推進団体連絡会では、自主行動計画2025の3年度目（2023年度）の実績について、経団連とともにフォローアップ報告を12月に記者発表いたしました。

加えて今年も、紙製容器包装の再資源化推進のための調査研究を行うとともに、「紙製容器包装3R改善事例集 第18版」の発行等、これらの活動と情報発信により、市民や行政との連携の深化と活動のレベルアップを進めてまいります。

末筆ではございますが、今年が会員の皆様にとって幸多い年となります様、心からお祈り申し上げます。

以上

本推進協ニュースNo.121は以下の内容を御報告します。

- 1 2024年度 第2回理事会の報告
- 2 容器包装3R推進のための自主行動計画2025
2023年度フォローアップ報告
- 3 3R改善事例集第18版の完成
- 4 エコプロ2024への出展
- 5 産業構造審議会イノベーション・環境分科会資源循環経済小委員会（第9回）

1 2024年度 第2回理事会の報告

2024年度の第2回理事会が2024年11月18日に開催され、1)算定係数及び単価・容リ制度見直し関連動向、2)複合品リサイクル推進WGの活動報告、3)新会員募集／ご加入のお願いについて〈第1号議案〉、4)自主行動計画2025（2021～2025年度）3年目（2023年度）フォローアップ報告（案）、2023年度紙製容器包装のマテリアルフロー、3R改善事例集第18版（案）〈第2号議案〉について、報告・討議を行い、各議案について承認されました。以下にその概要を報告いたします。

来年度の当推進協議会の総会も、本年度に引き続きKKRホテル東京にて、来賓に三省以外も招くこととし、立食形式の懇親会も併せて、2025年6月3日（火）15：30開催の予定であることを報告しました。

議題1 算定係数及び単価・容リ制度見直し関連動向

- ・2025年度の算定係数、再商品化実施委託単価及び2024年度抛出委託単価を報告しました。2025年度再商品化実施委託単価は22,000円/トン、2024年度合理化抛出金見込み額は5年連続0円となりました。

議題2 複合品リサイクル推進WGの活動報告

- ・複合紙製容器包装の収集・リサイクルの推進を目的として、2024年7月26日に第1回複合品（複合紙製容器包装）リサイクル推進WGを開催しました。その目的・理由、取り組み内容、予算・特別会費募集の状況、求められる取り組み・目的、体制、市区アンケート調査について報告しました。また、本年度の活動計画として、自治体候補選定、パンフレットの作成、会員セミナーの開催、来年度の特別会費の請求について説明しました。

議題3 新会員募集／ご加入のお願いについて〈第1号議案〉

- ・現在、新たな会員募集活動を行っており(株)トベ商事に入会いただいたこと、引き続き新規会員加入への御協力をお願いし、会員候補の説明をしました。

議題4 自主行動計画2025（2021～2025年度）〈第2号議案〉

1) 3年目（2023年度）フォローアップ報告（案）

- ・リデュースの推進：21.1%削減（2004年度比：包装用紙・紙器用板紙の国内出荷量）

リデュース目標の国内出荷量は、基準年度（2004年度）比リデュース率15%に対し、3年目の2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もようやく薄まりリデュース率21.1%（前年度16.2%）と目標を達成、自主行動計画開始時（2006年度）からの累計削減量は4,028千トン（前年度3,585千トン）となり、売上高を原単位としますと基準年度（2004年度）比リデュース率35.2%（前年度27.3%）となったことを報告しました。

- ・リサイクルの推進：回収率22.4%（紙製容器包装の回収率推定のための調査）

回収率目標28%に対し、3年目の2023年度は、行政収集16.9%、集団回収5.4%、合計回収率22.4%（前年度22.9%）となりました。

2) 2023年度紙製容器包装のマテリアルフロー

3) 3R改善事例集第18版（案）

- ・今年度の3R改善事例集第18版の内容及び発行予定を報告しました。

※ 第1号議案・第2号議案について特段異議なく承認されました。

2 容器包装3R推進のための自主行動計画2025

2023年度フォローアップ報告

- ・事業者として取り組む第4次自主行動計画である自主行動計画2025の3年度目となる2023年度の成果発表を12月17日に経団連会館において報道関係者に向け発表を行いました。記者28名の参加がありました。
- ・紙製容器包装に係る成果発表の内容は、添付したフォローアップ報告（2023年度実績）の参照をお願いします（資料1）。

3 3R改善事例集第18版の完成

- ・総務委員会の活動として、会員の皆様の紙製容器包装の3R事例をご提供いただいて3R改善事例集を2007年度より毎年発行しております。

- ・ 2024年度は新しい3R改善事例の37件に加えて、2023年度の3R改善事例及び容器包装3R推進のための自主行動計画2025（3年度目）のフォローアップ報告も掲載して、第18版を作成いたしました。
- ・ 本事例集は、事業者による紙製容器包装の3R改善の取り組み内容や実績を広く行政や一般の方々に理解してもらうことを一つの目的とし、「3R推進団体連絡会」の自主行動計画フォローアップ記者報告会（2024年12月17日）やフォーラム及び展示会など市町村や市民団体との連携交流の場などで活用させていただいております。
- ・ 第18版は、12月上旬に会員の皆様に発送いたしました。追加をご希望の会員様は事務局までご連絡ください。送付の際、内容に関するアンケートも同封いたしました。ご意見、ご感想を是非とも事務局までお寄せください。次回以降の編集に向けて参考とさせていただきます、有意義で充実したものにしていきたいと考えております。また、今回の制作に多くの方にご協力いただきました。改めて感謝を申し上げます。

4 エコプロ2024への出展

- ・ 当紙推進協議会として公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の小間にガラスびん、PETボトル、プラスチック容器包装と協同で展示しました。
- ・ 3日間でエコプロ2024には63,303人が参加、昨年と比較して約3,500人減少しました。
- ・ 今回の展示においても従来の製品類の展示物は配置せず、素材ごとのリサイクルの流れや分別の重要性を昨年に引き続きイラストを交えて判り易く表示しました。
- ・ 3R推進団体連絡会においては、今年度は5年振りにクイズラリーを復活させて多くの小中学生に参加してもらい大変好評でした。また、例年通り、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットによるクイズイベントを最終日に3回実施しました。
- ・ 3R改善事例集は第18版を配布しました。

《別添資料》

資料1 2023年度フォローアップ報告抜粋、及び冊子

資料2 第19回 容器包装3R推進フォーラムのご案内

3. 紙製容器包装リサイクル推進協議会

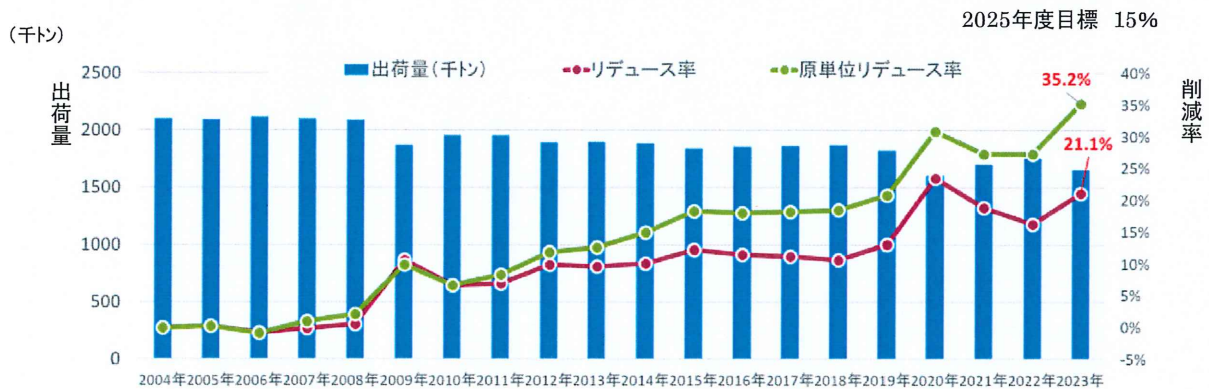
リデュースの推進:21.1%削減 (2004年度比:包装用紙・紙器用板紙の国内出荷量)

紙製容器包装は代表的指標となる容器形態が無い場合、原単位による削減把握が難しく、日本製紙連合会等の統計情報より紙製容器包装用途となる包装用紙・紙器用板紙の国内出荷量を指標としています。

自主行動計画 2025(2021~2025年度)のリデュース目標である国内出荷量は、基準年度(2004年度)比のリデュース率 15%に対し、3年度目の 2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もようやく薄まりリデュース率 21.1%(前年度 16.2%)となりました。

自主行動計画開始時(2006年度)からの累計削減量は 4,028 千トン(前年度 3,585 千トン)、売上高(*1)を原単位としますと基準年度(2004年度)比でリデュース率 35.2%(前年度 27.3%)となりました。

(*1) 売上高：経産省商業動態統計より 売上高＝小売業計－自動車－機械器具－燃料

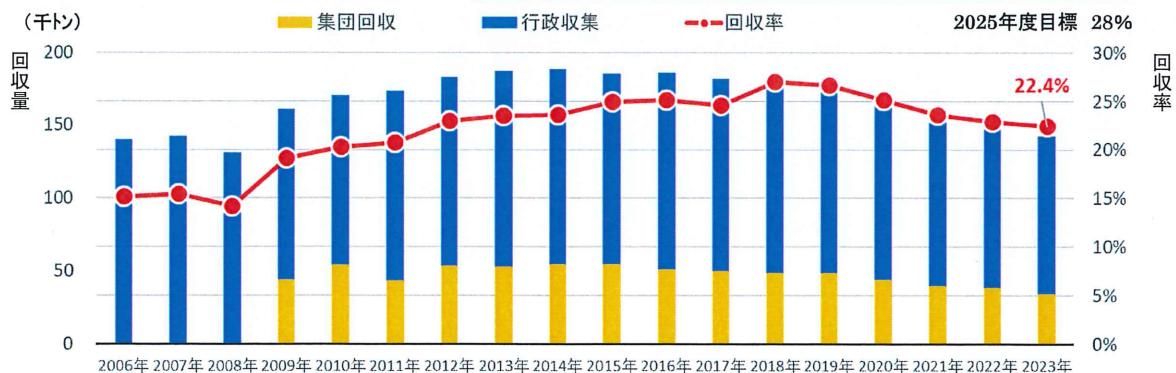


包装用紙・紙器用板紙のリデュース率及び国内出荷量の推移 (基準年度=2004年度)

リサイクルの推進:回収率 22.4%(紙製容器包装の回収率推定のための調査)

紙製容器包装の回収率推定のため、「回収物の組成分析調査」や市区町村への「紙製容器包装のアンケート調査」より全国の家計からの回収量を拡大推計、産構審で発表される業種全体の紙製容器包装の「排出見込量」より回収率を算定しました。

自主行動計画 2025(2021~2025年度)の回収率目標 28%に対し、3年度目の 2023年度は、まだ新型コロナウイルス感染症の影響もあり、行政収集 16.9%、集団回収 5.4%、合計回収率は 22.4%(前年度 22.9%)となりました。



紙製容器包装の回収率及び回収量の推移

<ヒアリング調査・新型コロナウイルス感染症の影響>

市区町村での分別収集実績データが公表されていますが、回収は容リルートの他、古紙ルートで「雑がみ」等の混合回収が行われており、回収物の組成分析調査等、様々な調査活動により実態把握を進めています。2023年度も3市で直接ヒアリング調査を実施しました。中国の廃棄物輸入規制の影響や2020年より新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、2023年5月に5類へと変更になり落ち着きを取り戻してきましたが、今後も古紙相場の動向により回収率の低下が懸念されます。

<回収物の組成分析調査 [A]>

紙製容器包装の資源回収は、市区町村で様々な方法で実施されています。その資源化回収量算出のため行政収集・集団回収での

- (a) 「紙製容器包装」分別収集
- (b) 「雑がみ」混合回収中での紙製容器包装の構成比
- (c) 「雑誌・雑がみ」混合回収中での紙製容器包装の構成比
- (d) 「古紙全般」混合回収中での紙製容器包装の構成比

などの「回収物の組成分析調査」を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきたため、3年ぶりとなる2023年3月以降組成分析調査を再開しました。



<紙製容器包装のアンケート調査 [B]>

人口10万人程度以上の295市区を対象に「紙製容器包装のアンケート調査」として家庭から排出される「紙類の回収状況調査」を実施、292市区より2023年度の行政収集及び集団回収の(a)「紙製容器包装」分別収集量、(b)「雑がみ」混合回収量、(c)「雑誌・雑がみ」混合回収量、(d)「古紙全般」混合回収量等の回答を得ました。

<業種全体の紙製容器包装の排出見込量 [C]>

紙製容器包装の全体の排出量の推計について、従来は家庭から排出される紙製容器包装の「排出量モニター調査」より拡大推計していましたが、2021年度からは毎年9月末に産構審で発表される業種全体の紙製容器包装の「排出見込量」約63.6万トン（前年度約64.9万トン）を使用しました。

<紙製容器包装の回収量 拡大推計>

[A][B]の調査及び人口カバー率71.8%より拡大推計し、全国の「紙製容器包装」の行政収集量は約10.8万トン、集団回収量は約3.5万トンと推定し、合計回収量は約14.2万トンと推定しました。

<回収率算定>

全国の「紙製容器包装の回収量」及び業種全体の紙製容器包装の「排出見込量」より、行政収集率は16.9%、集団回収率は5.4%と推定し、合計回収率は22.4%と算定しました。

$$\text{回収率の算定式：回収率(\%)} = \frac{\text{紙製容器包装の回収量}(*2)}{\text{業種全体の紙製容器包装の排出見込量}(*3)}$$

(*2)回収量：回収物の組成分析調査、紙製容器包装のアンケート調査より行政収集量・集団回収量を推計

(*3)排出量：産構審で発表される業種全体の紙製容器包装の排出見込量

「紙製容器包装3R改善事例集第18版」及び「委員会活動報告書」を発行

会員企業・団体を中心に3R改善事例の提供をいただき「紙製容器包装3R改善事例集第18版」を2024年12月に発行、業界全体のレベルアップと普及啓発に努めています。

紙製容器包装のリデュース推進のため、薄肉化や容器包装のコンパクト化、糊代フラップの寸法縮小等の環境配慮設計に取り組むとともに、「プラスチック資源循環促進法」の施行にとともにプラスチックからの「紙化」が注目されるようになり多くの事例を掲載しています。

2023年度には、容り制度見直しの合同会合に備え、2012～2022年度の「容り法改正対策・総務・技術委員会活動報告書」を発行しデータ等も整理、分析を進めました。



3R改善事例集
第18版



容り法改正対策・
総務・技術委員会
活動報告書

リサイクル適性を考慮した環境配慮設計の取り組み

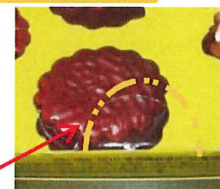
紙製容器包装のリサイクルの推進のために

- ①紙箱にミシン目を入れることにより廃棄時に潰しやすくする
- ②紙とプラスチックを分離しやすくする
- ③紙化・紙単体化の包装設計を行う

などの環境配慮設計の取り組みを進めています。



切り込み点線
を入れ潰しやすく



半円形のミシン目

CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)の取り組み

「プラスチック資源循環促進法」及び「施行令等」が2022年4月に施行され、「基本的な方針」の告示では、プラスチックから「再生可能資源（紙、バイオマスプラスチック等）に適切に切り替え」と「紙」について明確に位置付けていただき、プラからの「紙化」が注目されるようになりました。

経済産業省のCLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）に2020年2月より参加、2023年度より、CLOMA Key action 5「紙・セルロース素材の開発・利用」とKey action 4の「生分解性プラスチックの開発・利用」が統合され、Key action 4&5の「代替素材の開発・利用（紙・バイオプラ等）」となりました。

「エコプロ 2023」に出展

「エコプロ 2023」は、引き続き東京ビッグサイトでの開催となったため、(公財)日本容器包装リサイクル協会のブースで展示等を実施しました。

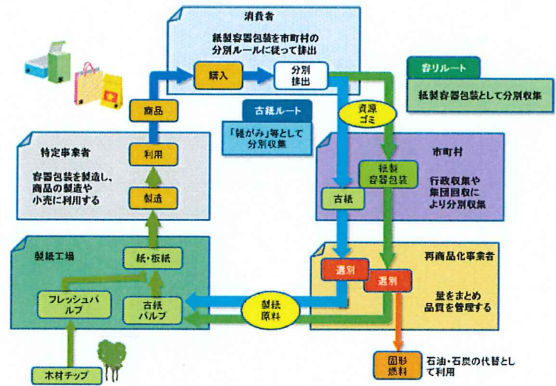


紙製容器包装のリサイクルフロー

紙製容器包装は、2つのリサイクルルートで資源化されています。

1 「紙製容器包装」として分別収集するルート（容リルート）

市町村で紙製容器包装の識別マークのついたものを対象に集め、収集されたものの再商品化（リサイクル）は特定事業者（容器包装の製造利用事業者）が、指定法人（公財）日本容器包装リサイクル協会に委託して行われます。主に製紙原料に利用され、製紙原料に向かないものは固形燃料等として利用されます。



2 「古紙」として分別収集するルート（古紙ルート）

市町村で従来からの古紙（新聞・雑誌・段ボール等）の回収ルートを利用して主に製紙原料に向く紙製容器包装を集め、製紙原料に向かないプラスチックとの複合品や匂いのついた箱等が回収対象から除かれます。

紙製容器包装は、「雑がみ」「その他の紙」などの分類で、紙小物類との混合で回収されます。

名古屋市での「紙単体紙製容器包装」の回収を容リルートから離脱し古紙ルートに

容リルート最大で全体の約1/3を占めた名古屋市が2023年度より有価で製紙原料向けの「紙単体紙製容器包装」を容リルートでの回収から離脱、紙小物を含む「雑がみ」に回収対象を拡大して、古紙ルートでの回収に変更しました。逆有償でRPF等の固形燃料に再商品化する「複合紙製容器包装」のみは引続き容リルートで回収を継続しています。容リルートでの回収は大幅に減少する見込です。

アルミ付紙パックについて自主回収やNPO等の活動を支援

アルミ付紙パックの自主回収の仕組み作りとして、市民団体との協働による「酒パックリサイクル促進協議会」が設立され、その活動を支援しています。

小売酒販店を主体とした回収拠点「エコ酒屋」は、現在、全国で352店舗の取り組みがあります。また、酒造メーカーで発生する損紙のリサイクルシステムの構築も進められています。

「複合品(複合紙製容器包装)リサイクル推進WG」の設置

次頁の紙製容器包装の「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言」の3にて主張してきましたアルミ付紙パックや紙カップ・複合紙箱をはじめとした複合品（複合紙製容器包装；いわゆる禁忌品）のリサイクルの推進及び「プラスチック資源循環促進法」の施行にともない「紙化」を進めるにあたり、「複合品」のリサイクルの推進が求められていたため、「複合品（複合紙製容器包装）リサイクル推進WG」の設置について討議を行い2024年5月15日の理事会で承認されました。

容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言(紙識別マークの見直しを提言)

当推進協議会にて設置した容リ法改正対策委員会において、紙製容器包装のリサイクルにおける課題及び対策を整理して提言案をまとめ、2012年11月20日の理事会において承認されました。本提言において紙製容器包装の回収量拡大を要望しており、回収量の拡大にあたり紙識別マークの見直しを提言しています。

紙製容器包装の分別収集は、容器包装リサイクル法に従った指定法人ルートと「雑がみ」として既存の古紙ルートを利用した回収方法があり、市町村の判断により地域の実情を反映した分別収集方法で実施されています。このため、紙製容器包装中の回収対象物と非対象物(難処理古紙)の設定に市町村ごとに違いがあるため、紙識別マークは多くの市町村で利用されていない状況にあります。

また、難処理古紙でも古紙パルプを製造可能な工場が一部あり、製紙原料化の適・不適でも画一的な区別は行われていない状況です。

当推進協議会では、容リ制度見直しの合同審議会において、ヒアリングを受け紙識別マークの見直しを含む本提言を説明、2016年5月「容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」において、「紙製容器包装の回収量の拡大の観点からの識別表示の検討を引き続き行うべきである。」と考えられる施策の例として取り上げられました。

容器包装リサイクル制度の見直しに備え2022年11月16日の理事会で改訂しました。

紙製容器包装の 「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた 提言」

紙製容器包装リサイクル推進協議会
会長 藤矢 祥博
専務理事 川村 雄也

紙製容器包装の「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言」骨子

1 紙製容器包装の収集・リサイクルの推進

提言1 紙製容器包装を収集する市町村の拡大を要望します

容リルート「紙製容器包装」分類での収集及び古紙ルート「雑がみ」分類での収集を実施する市町村の拡大を要望します。

提言2 紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言します

古紙ルート「雑がみ」分類で収集を実施する市町村の拡大及び紙製容器包装の回収量拡大のために、紙単体紙製容器包装(以下「紙単体」という)と複合紙製容器包装(以下「複合品」という)の区別表示の設定を提言します。

提言3 複合品の収集・リサイクルの推進を提言します

複合品も、家庭から排出される容リ法対象の紙製容器包装の約16%(約10万トン:当推進協議会調査)を占めており、固形燃料等の有効なリサイクル資源であるため、収集・リサイクルの推進を提言します。

提言4 紙製容器包装の収集拡大のための啓発を要望します

紙製容器包装(あるいは雑がみ)の収集を実施する市町村を拡大するために、紙製容器包装が有効な資源であることを市町村に啓発することを要望します。

提言5 今後の制度見直し

紙製容器包装全体のリサイクルシステムのあるべき姿の研究を進めます。

2 容器包装3R制度全体のあり方について

提言6 三者の役割分担を維持し取り組みの深化を図ります

提言7 主体間連携の強化を図ります

第19回 容器包装3R推進フォーラム サーキュラーエコノミーの 推進に向けた 容器包装3Rの意義

2025年1月28日(火)

14:00~17:30 参加費無料 事前申込制

会場

全労連会館 定員150名(先着順)

東京都文京区湯島2-4-4

開催方式

対面開催の他、オンライン、録画配信でも実施

基調講演

杏林大学 総合政策学部

教授 齊藤 崇 氏



主催

3R推進団体連絡会

【構成団体】

- ・ガラスびん3R促進協議会
- ・PETボトルリサイクル推進協議会
- ・紙製容器包装リサイクル推進協議会
- ・プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- ・スチール缶リサイクル協会
- ・アルミ缶リサイクル協会
- ・飲料用紙容器リサイクル協議会
- ・段ボールリサイクル協議会

後援(申請中・予定)

・経済産業省 ・環境省 ・農林水産省 ・東京都 ・文京区

- ・(一社)日本経済団体連合会
- ・日本商工会議所
- ・(公財)日本容器包装リサイクル協会
- ・(公社)全国都市清掃会議
- ・リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- ・(一社)廃棄物資源循環学会
- ・日本再生資源事業協同組合連合会
- ・3R・資源循環推進フォーラム
- ・(公財)あしたの日本を創る協会
- ・全国生活学校連絡協議会
- ・主婦連合会
- ・NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
- ・(一社)日本百貨店協会
- ・日本チェーンストア協会
- ・(一社)日本フランチャイズチェーン協会
- ・(一社)日本スーパーマーケット協会
- ・(一財)食品産業センター
- ・(一社)産業環境管理協会
- ・(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会



■文京区 全労連会館
(中央線・総武線 御茶ノ水駅 徒歩8分)

申込締切 1月17日(金)

第19回容器包装3R推進フォーラム 開催概要

平成18年度からスタートした「容器包装3R推進フォーラム」は、自治体・市民・事業者等の様々な主体が連携して容器包装3Rを推進する場づくりを目的として開催しています。

これまで、横浜市（平成18年度）、神戸市（19年度）、東京都（20年度）、京都市（21年度）、さいたま市（22年度）、名古屋市（23年度）、仙台市（24年度）、川崎市（25年度）、品川区（26年度）、北区（27年度）、荒川区（28年度）、中央区（29年度）、杉並区（30年度）、千代田区（令和元年度）、オンライン開催（令和2年度）、渋谷区（令和3年度）、墨田区（令和4年度）、港区（令和5年度）で18回のフォーラムを開催し、各主体間の情報共有と問題意識が図れたものと考えております。

さらなる容器包装リサイクルのために各ステークホルダーがどのような取組みを進めているのか、情報共有を目的としたフォーラムを今年度は以下のとおり開催いたします。

■ 日時・開催場所 ■

日時：2025年1月28日（火）14時00分～17時30分

場所：全労連会館（〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4）とオンライン配信

■ プログラム（予定） ■

時間	内容	講師
13:30～	開場・受付開始	
14:00～14:05	開会挨拶等	
14:05～14:20	自主行動計画 フォローアップ	3R推進団体連絡会
14:20～15:00	基調講演	サーキュラーエコノミーの推進に向けた容器包装3Rの意義 齊藤 崇 氏 (杏林大学総合政策学部・大学院国際協力研究科 教授)
15:00～16:00	事例報告	●事業者：西永 英司氏 (ライオン株式会社 サステナビリティ推進部 部長) ●自治体：稲田 佳代子氏 (北九州市環境局循環社会推進課 循環社会推進課長) ●市民・消費者：堀 孝弘氏 (NPO法人 環境市民)
16:00～16:15	休憩	
16:15～17:30	国からの報告	経済産業省／環境省／農林水産省
17:30	閉会	

※ 本フォーラムは現地開催に加え、オンライン配信、録画配信もいたします。

■ 参加申込方法 ■

- ご参加を希望される方は、以下のHPの参加申込フォームへお名前、ご所属等を入力し、**2025年1月17日（金）**までにお申込みください。
- フォームでの登録が難しい場合は、以下に示すメールにご連絡ください。以降の手続きをご案内いたします。
- 本フォーラムは、**先着順の事前申込制**とさせていただきます。お申込みの際に現地（150名）、オンライン（100名）、後日の録画配信の3つの区分から参加方法を選択してください。
- なお、現地参加希望者が多数の場合には、同一団体で複数名のお申込みいただいた方にオンライン参加に切り替えていただくなど、調整させていただくことがあります。

【お申込み・お問合せ先】

(事務局) 株式会社NTTデータ経営研究所

東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル9階

e-mail 19th3rforum@nttdata-strategy.com

HP <https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/event/19th3rforum/>



スマートフォン等の場合は、左のQRコードを用いるとアクセスに便利です。